

社協の取り組み

三月二十三日、味の素スタジアム内の避難所に「被災者支援ボランティアセンター」を開所。調布社協に関係する企業のネットワークと、地域の団体、ボランティアの協力のもと、ピーク時には、百八十人を超える被災者の避難生活の支援を行いました。約二千九百名のボランティア仮登録があり、その経過はNHKで放映され注目を集めました。自治会の皆様には、炊き出しや義援金の取りまとめなどにご協力を戴き、誠に感謝申し上げます。

避難所は、五月二十二日に閉鎖となり、被災者の皆さんは各地域で新しい生活をスタートしています。今後は、地域で孤立することのないよう次のサイトで支援してまいりますので、是非ご案内下さい。

調布市被災者支援ボランティアセンター
<http://chofu.vc>



調布市自治会連合協議会
会長 大久保 正二
ぬくもりの心が、熱き心に！

三月十一日午後、未曾有の大震災が日本を襲った。M9の大地震と大津波は、東日本沿岸部全てを呑み込み、破壊し尽くしました。この惨状は、全国民はもとより全世界の人々にリアルタイムで報道され、茫然自失した人々の姿が克明に報道されました。

その直後に開かれた私共役員会で、この非常事態に「被災者を何とか救援したい！」との熱い議論が交わされ、救援募金を早急に行う事になりました。急遽、加盟全自治会長さん宛に趣意書を送り、四月末日には募金が集まりました。約千三百万円と言う驚異的な数字は、私達が予測した金額をはるかに上回り、協力を戴いた各自治会の役員、会員の皆様の心のやさしさと、温かさに感動し、私は目頭を熱くしました。

「ありがとうございます」と言うだけでは言い尽くせません。心から、感謝申し上げます。

義援金 ¥13,033,400 104自治会

温かい豚汁が教えてくれた早急な防災対策への取り組み

飛田給自治会



東日本大震災の発生から早くも四ヶ月以上の月日が過ぎていきます。三月十一日は決して忘れることの出来ない震災として、日本史に大きく刻まれることでしょう。私たちは、地震にはあまり実感のない中で生活して来ましたが、東日本大震災を目で見、体で感じて、防災対策の重要性を、改めて痛感しました。

私たち飛田給自治会では、東京都が福島第二原発事故による避難民の方々を味の素スタジアムへの受け入れを決めた事を受け、「自治会として手助けをしよう！」と役員より声が上ががり、三月二十一日に「炊き出し」を実施しました。

自治会員の協力を得て前日夕方より準備し「着の身着のまま」で避難された方々に、少しでも温かい食べ物をお出しし、心の不安を少しでも癒して戴くことが出来ればと、「豚汁・ごはん」をお出ししました。味の素スタジアムでの炊き出しは、飛田給自治会が初めてで不慣れなこともありましたが、「久しぶりに温かいものを食べた」と喜ばれ、何か元気をお互いに戴いた、豚汁の炊き出しの場になりました。

避難された方々の話を聞けば聞く程、地震・津波の恐ろしさ、自然の力の大きさが良く分かりました。一日でも早く地域の状況をしっかり調査・研究し、自治会を中心として実情に応じた対策を模索しながら、「安全・安心の町作り、お互い助け合う町の構築」に取り組みたいと思います。

転ばぬ先の杖！





定期総会、全案件承認される！

六月十八日、東日本大震災の被災者の方への黙祷から、定期総会が開催されました。避難所生活の大変さが、想像されず。

大久保会長から、東日本大震災への義援金が会員自治会のご尽力で予想を大幅に上回る額に達した事に感謝すると共に、「市民大集会」が成功裏に終了した事が報告されました。



五月十五日「味スタ感謝祭」は、好天に恵まれ大勢の方が来場されました。多くの方は、スタジアム内外に出店したフリーマーケットが目を当てのようで、大変な賑わいでした。当会が出店した二階正面脇テントでの生ビール販売も、並んで出店している団体と同様、開会と同時に客足が途絶えることなく、多くの方にお立ち寄り戴き賑やかな一時でした。

「味スタ感謝祭」に参加！ 企画・事業推進委員会

市民大集会の内容は、前半・後半に分け、前半を当会の日頃の活動等をPRする機会とし、会長挨拶と役員の紹介、来賓挨拶と来賓紹介を致しました。後半は、深大寺住職による講演と、能楽師山中迥晶氏による能楽鑑賞と致しました。

深大寺住職の張堂完俊氏による講演では、「人と人との縁」と題して深大寺を中心とした歴史や、地域社会との関わり等ユーモアを交えて話され、客席の方々も一緒に頷くなど興味深い講演でした。

続いて、能楽師山中迥晶氏による「能のある空間」、「知って、見て楽しむ能楽」と題して、能に対する解説があり、続いて同氏が指導する深大寺地区を中心とした幼稚園児から小学生の演ずる「新能」が披露



「市民大集会」千百人が集う 企画・事業推進委員会

露されました。子供たちが、和装で舞う愛らしさに会場は大拍手でした。

演技の合間には、能に関するレクチャーもあり、興味・関心を深める事が出来ました。最後は、山中迥晶氏による正装での能楽「羽衣」を舞って戴きました。能面を付けて、純白の衣装で舞う姿は、物語の羽衣を連想させる素晴らしい舞で、会場を魅了しました。

この度、市民千百人が集う大集会を開催することが、出来ました。一月の厳寒期の開催でしたが、ご出席戴きました市民の方々には改めてお礼を申し上げますと共に、今後のご支援をお願いし、報告と致します。





企画・
事業推進委員会
委員長
矢田部 正照

■地域自治会との連携を強化

平成二十三年度は、継続事業と新規事業合わせ、次の五事業を実施します。

- 一・味スタ感謝祭への参加
五月十五日開催
- 二・調布飛行場祭りへの参加
十月下旬開催。味スタ感謝祭と共にイベントを通じて、自治連協の活動を広く市民にPRする機会として継続参加する。
- 三・地域懇談会の開催
加盟自治会の方々との懇談を通じて自治会の抱える諸問題について協議する。
- 四・研修会の実施
十一月、近隣都市の自治会を見学し、当会活動の参考とする。
- 五・アンケート調査の実施
九月、加盟自治会を対象に実施し、地域自治会の抱える問題課題や諸問題について把握し当会活動の参考とする。



総務委員会
委員長
荒井 清勝

■更なる基礎固めの年！

「真に魅力ある自治連協の実現」のために、従来の仕事の進め方や決め事を基本から見直す事とした。また、委員会全体として十分論議を尽くして、諸事を進めたい。

- 一・共通課題への提言まとめ
年会費完収、加盟促進策の提案
(特に、マンシヨン問題)
- 二・ホームページの開発・公開
若年層及び他関連機関への広報手段として活用する。従来、自治連協の詳細情報を広報する手段がなかったため活用する。
- 三・広報紙の発行
年間二回発行。自治連協の基本的な活動の広報を図る
- 四・諸規定の整備
慣例的な諸事を明確に規定し、透明性を向上させると共に合理性も追及したい。



安全委員会
委員長
伊藤 陽介

■東日本大震災が残したものの

三・一一東日本大震災は、福島第一原発関連を含め、未曾有の犠牲者と被災者・避難者を生み、物的被害をもたらしました。改めてお悔やみとお見舞いを申し上げます。早期の復興をお祈りします。

この大震災は、「安全」「生活の質」「生活のありよう」等根本的な問題を私たちに投げかけています。国民の幅広い議論と合意形成が、必要だろうと思います。
自治連協では、今年も地域限定型防災訓練を実施するため関係先と予備折衝中です。
訓練内容は、昨年の布田小学校における実績や今回の大震災の実情に学んで改善し、市民の防災や安全意識の高まりに応える考えです。

■安全な街づくりに寄与

防災訓練は、近隣の方々との結びつきを強め、災害に備える上で極めて効果的です。

皆様のご協力をお願いします。



福祉委員会
委員長
清水 正巳

■支え合い社会の実現を目指して

住民が、住み慣れた地域で、安心して生活を継続するための「支え合いの仕組み作り」に注力したい。そのためには効果的な情報共有は必須であり、それを実現するために研修なども計画する予定です。

私たちは、いつ助けられる側に回るか分からない。自らの情報がある程度オープンにしないと「助けて！」と言合える繋がりは、できない！近隣関係の希薄化の中で、地域住民の繋がりを再構築するなどの地域福祉の新しい役割が出て来ている。

■本年度の重点目標

- 一・小地域交流事業（社会福祉協議会）への後援参加
- 二・調布市福祉まつりへの継続参加
- 加
・福祉活動資金の増強
・ふれあいコーナーの充実

小雪ちらつくガレキの仙台・多賀城市へ



ボランティア支援された狩野さんご夫妻

絆を頼って瓦礫の中へ

東つつじが丘三丁目自治会の狩野さんご夫妻は、仙台・多賀城市に住む方の安否が確認できず、電話を掛け続けること4日目によく通じ「家は、高台に有ったので全員無事！」と判明。現地は、四月上旬にも拘らず小雪がちらつく天候のため、救援物資の要望を聞くと、食料に次ぎオーバー等の防寒具が必要との事でした。

ご希望支援物資の調達へ

水、インスタントラーメン、長靴、スコップ、大型ボール、紙オムツ、等多種に渡る支援物資の希望がありました。既に店頭には物がなく、家族・知人総出でかき集めました。

涙の出るメッセージ入り ランドセル七十個集まる！

自分の思い出の品・大切な宝物のランドセルを、災害地の子供たちのためと、激励のメッセージを付けて提供して戴きました。

二トントラックを増車し 災害救援車として多賀城市へ

災害緊急車両用に切り開いた瓦礫の中の仮設道路を進み現地入りしたが、「わが人生最大の未体験被災現場を前に、驚きとショックで言葉にならず！」(狩野夫妻の言葉)。

復興に向けてのご近所の絆力

被災者の方は、避難所生活をしながら地域の区長さんが中心になり、行方不明者の搜索、家の片づけ等々、復興に向けて力を合わせている姿を見て「地域の力」に関心させられましたとの事でした。

特に、今回の支援物資の中に復興用具が含まれていた事の理解が理解できました。

現地の元気と底力を頂き岐路へ

行方不明者が多数発生。ほとんどの家屋が倒壊。行政は、機能喪失。支援物資は、県レベルまでには届いても現地への配送に手を焼いている。被災者の欲しいものがない！しかし、地域

の見事なチームワークと行動力で、持参した物資は、即要望された避難所に配達し、お手伝いもできました。調布の皆さんの努力に、熱い感謝の言葉と、勇気と元気を頂きました。自然災害に怯まず着々と復興への挑戦を、肌で感じた事等を反芻しながら深夜帰郷できました。

今回、地域の皆様には多数の支援物資を御協力頂き心からお礼申し上げます。

(取材：小島総務副委員長)



多賀城、塩釜付近

賛助会員

敬称略

調布市社会福祉協議会

東京都共同募金会調布地区協力会

調布交通安全協会

調布地区防犯協会

調布災害防止協会

高津装飾美術(株)

深大寺

共進倉庫(株) ・ 林建設(株)

永易運輸(株) ・ 齊藤倉庫(株)

橋本石材(株) ・ 研精会 山田病院

昭和信用金庫多摩川支店

(有)薩南温調 ・ シマダハウス(株)

京王建設(株) ・ 京王バス東(株)

(株)レストラン京王

緑ヶ丘一丁目自治会

緑ヶ丘二丁目自治会

緑ヶ丘西部自治会

緑ヶ丘自治会

西つつじヶ丘第四自治会

仙川緑ヶ丘若葉町親和会自治会

深大寺元町一丁目自治会

林 貞夫 ・ 増岡 源吾

矢田部新一 ・ 川手 一郎

恩田 章司 ・ 元木 輝昌

藤橋 道夫 ・ 川原 主計

山崎彦二郎 ・ 平林 伸作

大久保正二

温かいご支援に感謝！